

ひまわりの習性

夏が来るとひまわりの季節がきたなあ・・・と感じます。ひまわりは、英語では、Sunflower(太陽の花)です。原産地は北アメリカでキク科の植物です。日本の漢字では、「向日葵」と書きます。日に向かう葵なのです。

ひまわりはロシアの国花でもあります。

ひまわりが太陽のほうを向(む)くという習性から「ひまわり」の名前がつけました。

ひまわりが太陽の方を向くのは、ひまわりが「つぼみ」のときだけです。ひまわりが、太陽の方角に合わせて動くのは、茎が伸びている成長段階だけなのです。この時期、ひまわりの茎は、太陽の光が当たっていない側の方が、成長が早く、成長を促すため、太陽の当たっている側へと曲がるのです。これが、人間からすると、花が太陽に向かって咲いているように、見えてしまうというわけです。

ひまわりの花が咲く頃になれば、茎の成長が止まります。すると、太陽の動きにあわせて、向きが変わるという事は、まったくなくなります。

ひまわり畑を見ていて、太陽の方に向いているひまわりと、そうでないひまわりがあります。

太陽の方向を向いて動くひまわりはつぼみの状態のひまわりです。

成長しきったひまわりは太陽の向きに向かって動くことはせずにある一定の方向を向いています。

完全に花が開いてしまえば、東か西を向いたまま動かなくなります。

太陽を追いかける花はひまわりだけではありません。例えば、マリーゴールドも朝に花が咲くと太陽の方へと向き夕方に花を閉じます。

また、ダリアや百日草もそうです。

このように、光合成のために茎などが太陽光線の強い方へ向かって屈曲する性質を「向日性」といいます。

